

イザベラ・バード、源義経、松尾芭蕉

# 「3賢者」テーマに

## 本県を「元気にするシンポ」開催

# 観光振興策探る

山形



「山形を元気にするシンポジウム―最上川・街道・三賢者―が一日、山形市の霞城セントラルで開かれた。本県を「アジアのアルカディア（桃源郷）」と称賛した英国人旅行家イザベラ・バード、源義経、松尾芭蕉をキーワードに、本県観光の魅力アップに向けた方策を話し合った。

東京のまちづくりグループ「元氣・まちネット」（矢口正武代表＝戸沢村出身）が主催。「まちネット」はおとし、義経が通ったとされる県内ルートを、去年はバードの道を踏査し、ことしは芭蕉の「おくのほそ道」をたどる計画。義経、バード、芭蕉を三賢者と位置付けている。

イザベラ・バードが歩いた県内ルートの踏査などについて報告する「元氣・まちネット」の矢口正武代表（手前）

シンポジウムでは、矢口代表が「三賢者の道を踏査することでは何かが見えてくるのではないかと考えた。山形の素晴らしい自然や歴史・文化を東京で発信し続けていきたい」とあいさつした。

続いて芭蕉研究で知られる尾花沢市歴史文化専門員の梅津保一さんがあいさつし、「地域興しの主役となる人づくりや、活動を支援する新しい組織づくりが求められる。行政任せではなく官民一体で取り組むべきだ」と強調した。

このあと、登山家の吉田岳さん（小国町）が講演。去年、県山岳連盟の登山隊で中国チベット自治区の未踏峰ヤラシャンポの初登頂を果たした際のエピソードや、小国町などで「バードの道」踏査のガイドを務めた思い出などを語った。パネル討論では、「ま

ちネット」会員の神原理専修大教授の進行で、義経ルートに関連する鶴岡市鼠ヶ関、戸沢村、最上町、バードのルートに関連する小国町、上山市、金山町の関係者らが、活性化に向けた取り組みを報告した。